

令和6年1月24日

東部農林水産振興センター出雲農業部

標 題	令和5年産稲WCSは全体目標超えの9.7ロール/10a@出雲WCS協議会！ ～総会・研修会で次年産の重点的指導ポイントを確認～
------------	--

(ダイジェスト)

R5年産栽培面積(143.3ha)が過去最高になったことから出荷ロール数も記録を更新し、更に平均単収も全体目標(9.5ロール/10a)をクリアし、記録更新づくしの年となりました。
 しかし、早生品種は目標収量に届かず、また品質面で課題が残ったことから、重点的指導ポイントを見直し、引き続き質・量ともに安定生産していくことを生産者等と確認しました。

出雲WCS協議会ではR5年産の栽培こよみに初めて目標単収(早生:2,400kg(8ロール)/10a、中生・晩生:3,000kg(10ロール)/10a)を掲げ、併せてその達成に必要な5つの重点的指導ポイント(下記参照)をそこに記載して指導してきました。

年産	面積 (ha)	単 収 (ロール/10a)
R1	102.2	8.8
R2	114.0	7.7
R3	116.5	8.9
R4	122.0	9.1
R5	143.3	9.7

この間の取り組みに関しては、令和5年5月22日及び8月16日付けの普及情報(No.1及び5)で収穫基準田の設置や電子レンジの活用について情報提供し、また7月25日には県のフェイスブックで収穫作業の動画を配信してきました。

この度、収穫作業が終わって生産実績等が明らかになってきたことから、R5年産の状況と次年産に向けたポイントについて報告します。

早生品種においては目標単収をクリアしたところがあったものの、植付本数の不足や田植時の低温等の影響を受けたことから、目標には届きませんでした。中生と晩生については一部で紋枯れ病が発生したものの概ね順調に収穫を迎えて達成することができました。

一方、品質面では13点について官能評価と飼料分析を行った結果、一部に光沢や香りが劣るもの、乳酸やpHが目標値に達しないものがあり、課題を残しました。

昨年4月以降、栽培管理を中心に活動してきましたが、品質の維持向上を考えた場合、収穫以降の作業も大きく影響することを改めて痛感したことから、R6年産に向けた重点的指導ポイントを対象者ごとに整理し、見直しを行いました。これについては先月20日に開催された協議会の総会・研修会で具体的に説明し、生産者等と確認を行いました。

今後、農業部としては農機メーカーなど幅広い関係者と互いに連携を図りながら、稲WCSの収量及び品質の向上に努めていくことにしています。

早晚	品 種	単収(ロール/10a)	
		目 標	実 績
早生	つきはやか	8.0	6.1
	夢あおば		
中生	たちあやか	10.0	11.1
	つきあやか		
晩生	つきすずか	10.0	11.1
加重平均		9.5	9.7



【令和6年産における重点的指導ポイント】
(波線箇所が見直し(追加)部分)
 (栽培者)
 ◇植付本数(本/株)及び植付株数(株/坪)の確保(特に早生)
 ◇雑草の徹底防除
 ◇作溝作業の実施と適正な水管理(落水)
 (収穫作業者(オペレーター))
 ◇水分含量70%以下でかつ朝露など付着水のない状態での収穫作業の実施
 ◇細断、混合、高密度梱包が可能な機械の調整と操作(特に穂重型(夢あおば)・長稈品種)
 ◇異物(泥土・雑草等)混入がない機械操作
 ◇WCSが変形・破損しない運搬作業
 (利用者)
 ◇ロールの均等な切り崩しによる均一な飼料給与(特に穂重型(夢あおば)で小規模畜産農家)